

教育研修会

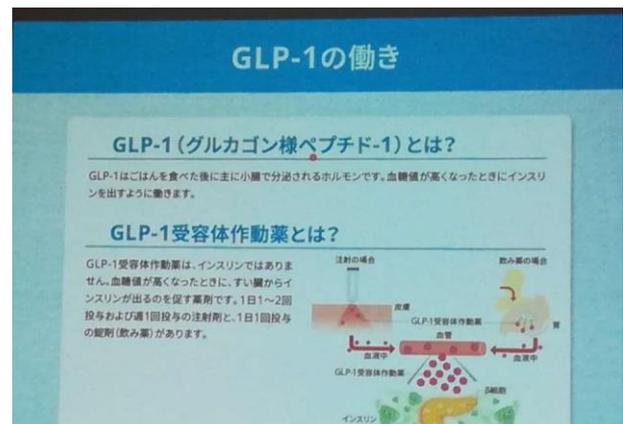
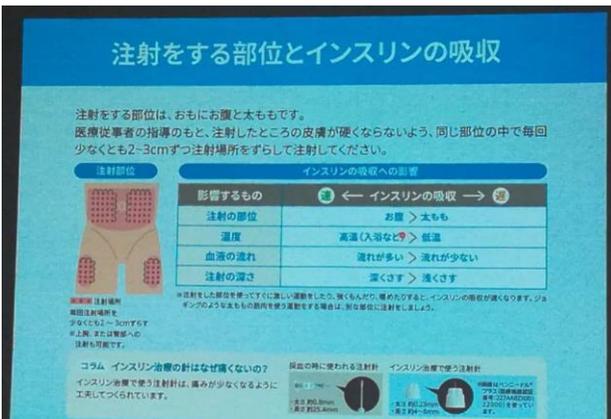
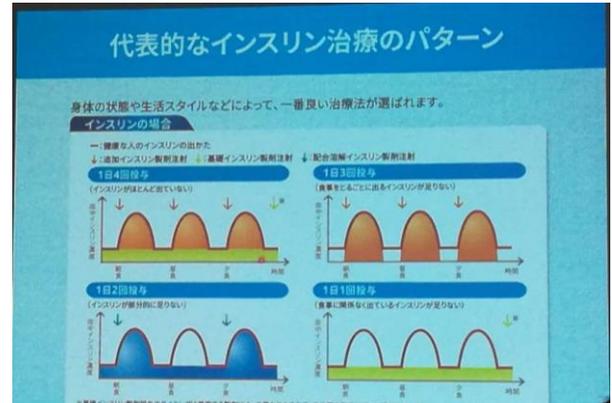
日時：R 6年 11月 5日(火) 16時40分より開始

場所：新王子病院 4F 会議室A

講師：ノボノルディスクファーマ(株)刀禰 ななえ様

テーマ：インスリン治療について

講義中の様子です。



インスリン治療についての講義でした。健康な人は血糖 100mg/dl 以下に抑えるように常にインスリンがでていますが、それをいかにインスリン注射で再現するかというのが治療の考え方だそうです。インスリンは、血液中のブドウ糖を細胞に取り込み、エネルギー源にすることで、血糖を下げる働きをもっています。食事をとるごとに膵臓から出るタイプと、食事に関係なく出ているタイプの2種類があり、不足している分を注射で補います。代表的なインスリン治療のパターンがあり、患者さんの生活スタイルによって治療を変えることができます。改めてインスリンの正しい注射の手技や低血糖症状、シックデイについての説明もしていただき、高齢者は低血糖を自覚しにくいことが多く、低血糖を起こさないことが大切だと分かりました。

GLP-1 受容体作動薬（オゼンピックやリベルサス）はインスリンでなく、血糖値が高くなったときに、膵臓からインスリン分泌を促す薬剤です。そのため低血糖のリスクが少ないですが、副作用として主に消化器症状があげられます。内服薬（リベルサス）は空腹の状態でも服用することで胃から有効成分が吸収され効果が発揮されるため、起床時内服を勧めるなどの指導が必要です。

今回の学びを日々の看護や指導に活かしていきたいと思っております。